

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑師勝 1階		
所在地	愛知県北名古屋市長之庄東出42-1		
自己評価作成日	令和3年10月6日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyosyoCd=2375200652-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・自立支援の基本ケア、水分・栄養・排泄・運動に力を入れ、一人一人にあったより良いケアに繋げて、認知症の軽減を目標にしている。
 ・基本理念の自己決定。自立支援・個性を大切にすることを重んじ、グループホームならではの家庭的な雰囲気大切にしている。
 ・看取りでは、ご家族様の意向に寄り添い、医療機関との連携を蜜にし、最後まで自分らしく暮らせるよう支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍によって、面会制限や外出制限に限らず、ホーム内での活動も制限を余儀なくされている。そのような中でも、様々な工夫と努力により利用者や家族の思いに寄り添った支援を心掛けている。日々の散歩もその一つである。ホーム周辺に限られるが、利用者1人に1人の職員が付き添い、利用者のペースに合わせて行われ、気分転換と運動を楽しむ時間となっている。
 「食べる楽しみ」にも注力し、昼食は専門の調理員によるやさしい味付けと工夫されたメニューで、美味しい食事を楽しんでいる。利用者と職員とが一緒に作るパンケーキやたこ焼きなどの手作りおやつも楽しみとなっている。職場環境もよく、風通しの良い職場は情報交換や協働体制が整い、チーム力が発揮されている。職員の満足と安心は、利用者と家族の満足・安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は常にスタッフの目に入る事務所に掲示してある	基本理念を事務所内に掲示している。以前は職員で唱和していたが、現在は行っていない。日常の業務の中で理念を意識した行動がとれるよう、職員に働きかけている。	理念について職員の理解を深めるための研修会や、話し合いの機会を設けることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・例年地域の行事や中学校の職場体験・小学校の街探検の場所として受け入れをしていたが、コロナ禍において、現在は出来ない	交流を目的とした地域やホームの行事は開催されず、積極的な交流は困難な状況にある。唯一、RUN伴には感染対策を講じて参加できた。自治会に加入しており、地域との情報交換・連携に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議で地域の方に参加頂き、認知症の相談や在宅での高齢者の話を聞き、各種サービスの紹介等の話をしているが、現在はコロナ禍において出来ない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2カ月に1回、開催し報告と共に意見交換の場としているが、コロナ禍において定期的に開催出来ない	2ヶ月に1回の運営推進会議の開催を計画しているが、ほとんどが書面開催となっている。開催できた時は、自治会長や家族の参加が得られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・地域ケア会議等に参加し相談していたが、コロナ禍において出来ない	コロナ禍によって、地域ケア会議が開催されなくなった。行政には、必要に応じて随時相談や報告を行い、情報交換したりアドバイスを受けていたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束委員会を設置し、3か月に1回話し合い、ミーティングで報告し勉強している。 ・玄関の施錠は、自動から手動に切り替えている	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、内容を回覧している。職員に拘束に関するアンケートを実施したり、ミーティングで話し合いの場を設ける等、教育にも取り組んでいる。職員は言葉かけを工夫する等、スピーチロックにも意識して支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・入浴・更衣時に身体を確認している。アザ等気になる事があれば、報告し画像に残している。常にスタッフ間で注意出来る環境作りも心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・実例を基にして、少しずつミーティングで学んでいるが、今後も機会を設け学ぶ必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、契約書等全て読み上げ、不明な点を聞き取っている。改定等、金額の変更がある時は必ず同意書を貰っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議に家族代表様に参加して頂き、意見を聞く機会を設けている ・コロナ禍において、面会禁止時はご家族に連絡し、現状報告をしている	運営推進会議が開催できるときは、家族にも参加してもらい、発言の機会を設けている。面会制限下においては随時電話連絡をしており、その際要望や希望、意見などを聞き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者とは、常に話を出来る環境にあり、代表者とは、研修等で話が出る	管理者と職員の面談が年2回実施され、要望や意見を伝えることができる。「風通しの良い職場で、研修会への参加や資格取得についての支援もある」と、職員のモチベーションの維持・向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・考課制度を取り入れ、年2回面談をし、個々に目標を立てて、それに向かって働いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・一人一人に合わせた研修がリモートで行われており、レベルアップに繋げている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1度、市内のグループホーム交流会があり、参加していたが、現在は実施していない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・アセスメントを細かくし、安心して頂けるよう支援し、情報共有している ・会話の中で本人の気持ちを汲み取れるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入居前の面談でご家族も同席頂き、困っている事を聞き生活環境を伝え、相談しながら支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前に在宅サービスを利用している場合は、ケアマネや施設スタッフから聞き取りを行い情報収集をして対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・暮らしの中で出来る事を把握し、やりたい事を観察しながら、常に声掛けし、一緒に出来る事は行い見守りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・コロナ禍において、面会の機会は減っているが、オンライン面会や毎月のお便りにて近況報告している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ感染予防対策として、面会禁止となっているが、終息後、家族様の承諾を得て面会可能にしていきたい	面会制限・外出制限下にあり、従来のような支援は困難な状況にある。ホーム内で、編み物やプランターでの野菜作りなど、趣味の継続を支援している。手紙やはがきで家族とやり取りする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションの際、スタッフが間に入り、良い関係が築けるようにしている ・お互いの関係性をみながら、席の配置を考え、必要であれば、交換をしながら、皆が関わられるように配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約が終了した後も、様々なタイミングで行なっている。 ・苑で亡くなられた際は、はがきを出しグリーフケアを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・タイムスケジュールはあるが、拘る事なく状況に応じて柔軟に対応している ・希望に添えるよう自分らしく暮らせるように支援している	1対1での入浴や散歩等は、利用者の思いを知る機会となり、得た情報は記録して職員間で共有している。また、必要に応じて介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・これまでの生活はご家族・ケアマネに聞き取りをし、アセスメントシートにて情報共有している、		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人出来る事・出来ない事を把握し、その人にあった生活をしている ・朝のバイタル測定の際にその日の心身状態の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月モニタリングを行ない話し合いをしている ・年に1回 ご家族と担当者会議を行い報告をし、3ヶ月に1回ケアプランを見直し郵送している	日々の様子や毎月のモニタリングで状況を把握し、検討した上で3ヶ月毎に介護計画を見直している。年1回家族も参加してサービス担当者会議を開催し、意向を確認するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の暮らしをタブレットに入力し日誌を利用し記録をとり、情報共有している ・ケアの変更についてリーダーを中心に行い必要に応じて介護計画に盛り込んでいる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・希望するご家族には、訪問マッサージを受けている ・訪問美容・訪問歯科を利用している ・苑の主治医外にも、希望があれば他の医療機関を紹介している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ禍において、地域資源は、感染リスクを考慮して生かしきれていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前に今までのかかりつけ医、又は苑のかかりつけ医が選択して頂いている ・かかりつけ医は、月2回往診があり、必要があれば家族に立ち会って頂いている	従来のかかりつけ医を継続して利用することができ、訪問歯科、訪問看護、訪問マッサージも利用できる。専門医の受診も可能で、原則家族対応だが、必要に応じて職員が対応することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回訪問看護が来苑し、利用者様の状態を診て頂いている ・往診時に立会い指示をもらっている ・24時間連絡、可能な対応を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院後早い段階で、ご家族より状態を伺い、訪問看護からも病院と連携を取り、その情報をかかりつけ医と共有している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・契約時に看取りの話を行ない、ご家族の意向を聞き取っているが、そうなった時は、かかりつけ医・家族様・訪問看護・施設スタッフと話し合いの場を設け、方針を決めチームで支えている	入居時に家族の意向を確認し、医療的ケアが無い場合はホームで看取りを行うことを説明している。利用者の状況変化時には医師を交えて家族に説明し、その都度意向を確認して利用者・家族に寄り添ったケアを心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時や事故発生時のマニュアルがある為、把握している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に避難訓練を行なっている ・消防署の立会いも年1回あるが、コロナ感染リスクを考慮して出来ていない	年6回避難訓練を実施している。隣接する関連施設とは連携しており、応援体制ができている。水・食料などは3日分の備蓄がある。水害の危険性は低い、必要があれば垂直避難としている。	地元の消防団に協力をお願いするなど、地域との連携、協力体制を整えていくことが望まれる。

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・トイレ・入浴・更衣時は、声掛けし羞恥心に配慮している ・ミーティング時等で勉強している	トイレ誘導や入浴介助における羞恥心に配慮した言葉かけや介助を心掛けている。男性の介護者もいるが、日常のコミュニケーションや介助の方法を工夫するなど、問題なく対応できている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・行動する前に声掛けし、決定して頂いている ・決定表現が出来ない方には、1つ1つ声掛けしケアに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・個々に部屋があるが、利用者様のその時々の希望に沿って対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・起床時、整容し身だしなみに気を付けている ・ご自分で服を選んだり、化粧品を使用されてる方もみえる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の好みを考慮しつつも、楽しんで頂ける様心掛けている ・食器拭きなど出来る事をして頂いている	朝・夕食は配食サービスを利用し、昼食は専門の調理職員と職員で調理している。やさしい味付けと工夫されたメニューで、時にはプランターで作った季節の野菜が彩を添えることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・1人1人食べる量や大きさを考え提供している ・食事量・水分量を入力して把握し、水分が不足している方には、お好みの飲み物や口当たりのよいゼリーを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、口腔ケアの声掛けを行ない実施して頂いている ・仕上げが必要な方には、歯の状態に合わせたう洗口液やスポンジにて対応している ・年1回 歯科検診を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・活動の節目には、トイレの声掛けを行なっている ・排泄のパターンや仕草を知る事によりトイレ内での排泄を促している	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェックや声かけ等により、利用者の状態に合わせた排泄ケアに努めている。夜間も状況に応じて声かけを行い、睡眠の妨げにならないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・月・水・金のおやつにはヨーグルトを提供し、オリゴ糖をかけて自然排便を促している ・便秘気味の方には起床時牛乳を提供したりホットタオルでお腹を温めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・なかなか個々の希望に添えないが、気持ちよく入浴して頂ける様努めている。 ・入浴拒否された時は、時間を変えて声掛けをしている	週3回の入浴機会がある。ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じさせる取組みもある。拒否があった場合は声かけを工夫し、時間・曜日を変更する等、無理強いすることなく柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・居室にいつでも休める状態にある ・その時々状況に応じて昼寝等の声掛けをしている ・就寝時も一人一人にあった時間に休んで頂けるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・服薬ロボを導入している ・個々のファイルに薬表があり、すぐに確認出来る様になっている ・必要があれば、薬剤師に相談する事も出来る		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・役割や日課が出来るよう日々考えている ・食器拭き・洗濯物たたみをやって頂きながら、メリハリを付けている ・歌を唄ったり、散歩に出掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍において、外出は殆ど出来ていないが終息後、個々の希望に応じた外出を考えている	従来のような外出支援が困難な状況にある。日々の散歩は、職員と利用者が1対1で行われている。散歩は入所者の運動、気分転換、楽しみの重要な機会となっており、家族の意向に沿ったものとなっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・基本的には、事務所で管理しているが、希望があれば、使用することができる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望すれば、電話を取り次いでいる ・年賀状を家族様に出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を感じられる壁紙を貼ったり、お花を飾ったりしている ・プランターで家庭菜園をし楽しめる工夫をしている	広くて明るい共有スペースには音楽が流れ、ゆったりと過ごせる空間となっている。壁には季節を感じられる作品が掲示され、利用者がくつろげるスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・フロアーには、ソファがあり、食事の席と違う場所でくつろげる、テレビがみられる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時、馴染みの物を持って来て頂いている ・家族の写真を飾っている	自宅で使っていた馴染みの家具や仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。家族やお気に入りの写真、趣味の作品等も飾られ、思い思いに過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・毎月モニタリングをし、その方の出来る事を把握している ・全てスタッフが行うのではなく、見守りしながら、出来る事・わかる事を理解し生活にとりいれるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375200652		
法人名	株式会社 福祉の里		
事業所名	グループホーム遊楽苑師勝 2階		
所在地	愛知県北名古屋市熊之庄東出42-1		
自己評価作成日	令和3年10月4日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2375200652-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理学療法士の先生よりアドバイスを頂き、ボールを使い個々に合った運動機能訓練を実施している 再自立支援にて1日の水分量を1500cc摂取して頂ける様工夫しながら提供し、認知症の軽減を目標としている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は事務所に提示している 現在、コロナの為、唱和は中止している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎年、地域行事に参加していたが、コロナ禍の為交流出来ていない		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会議で地域の方に参加して頂きその際、認知症の相談や在宅での高齢者様の話をお聞きし、サービスの紹介等の話をしているが、現在はコロナ禍の為、開催出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一度開催し、事業所の報告と共に意見交換の場としているが、コロナ禍の為中止している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・必要に応じ、相談に乗って頂くことがある		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・3が月に1度身体拘束委員会にて話し合いをし拘束を行っていないか確認している ・言葉の拘束についても話し合いをしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・年に一度ミーテングにて勉強会を行なっている ・苑内・ご近所で虐待を発見した時には、通報義務がある事を伝えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・リーダーが研修を受けてミーティングにて伝達している ・成年後見制度を利用している方がみえる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の際には契約書等を全て読み上げ、不明な点等聞き取っている ・改正時や金額の変更等がある時には必ず同意書を貰っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議や担当者会議などで意見や要望を聞いている ・現在はリモート面会にて意見を聞く機会を設けている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者とは、日頃からスタッフと話す機会を設けている ・代表者とは、研修等で話をする機会がある		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・考課制度があり、年2回面談をし、目標を持って働ける様にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・ひとり一人のレベルに合わせた研修がありリモートで行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・2か月に1度、市内のグループホーム交流会があり参加していたが、現在は実施していない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前の面談時に、ご本人に聞き取りを行い、入居後も少しずつでも不安が軽減されるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面談時にご家族にも同席して頂き、困っている事や不安な面など聞き取り不安の無い様お話をさせて頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居前に在宅サービス等を利用されている場合は、事業所やケアマネから情報収集している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来る事を日々観察しながら声掛けをし一緒にいき、見守りしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・入居後も出来るだけ来苑する機会を持って頂きたいが、コロナの為オンライン面会などでお話しさせて頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・コロナ感染予防の為、現在は面会禁止となっているが、今後終息した際にはご家族様の了解を得て来苑が可能になるように努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・お互いの関係性を見ながら席を配置し、必要時には交換するなど配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した後も、連絡させて頂いたり、亡くなった際には定期的に葉書を出しグリーフケアを行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・基本的なタイムスケジュールはあるが、状況に応じて柔軟に対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・これまでの暮らしは、面談時などにご家族様やケアマネに聞き取りをしてスタッフに伝えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・1日のスケジュールはあるが、参加についてはご本人の状態を見て決めてもらっている ・心身の状態の変化があれば、職員間で情報共有を行なっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・毎月モニタリングを行い、話し合いをしている ・年に1度ご家族と担当者会議を行い、3ヶ月に1度介護計画書のサービス内容を見直し、ご家族にサインを頂いている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の変化、ケアの変更についてはリーダーを中心に行なっている ・連絡帳に記載しミーティングで話し合いをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ご家族の希望で訪問マッサージを受けられたり、訪問美容室を利用している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・コロナ発生前は地域ボランティアに来て頂いていたが、現在はリスクを考え中断している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居前の従来のかかりつけ医と苑でのかかりつけ医で選択していただいている ・苑でのかかりつけ医は月に2回の往診があり訪問看護と協力関係を築いている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週に1回訪問看護師が来苑され、往診に立ち会ってもらい指示を受けている ・24時間連絡可能な体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院後、早い段階で、ご家族様から状況を聞き取るようにしている ・病院の連携室と連携し、訪問看護よりかかりつけ医に報告してもらっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に看取りの話をし、ご家族様に意向を聞き取っている ・そうなった時の話し合いは早い段階で行い、ご家族様や職員が混乱の無い様方針を決め、支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時や事故発生時のマニュアルはある為、把握出来ている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に4回火災、水害、地震の訓練を行っている ・消防署の立ち合いも年に1回あり指導して頂いているがコロナ禍の為、行っていない		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・トイレなどへの声掛けは小声で行い、共用部での送迎をする際には利用者様に聞こえないように注意している ・丁寧な対応や言葉かけをするように心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定を基本としている ・自己決定が出来ない利用者様には、1つ1つ説明してから行動している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・声掛けをさせて頂くが、ご本人の希望を優先して過ごして頂ける様にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・起床時は櫛で髪の毛を整え身だしなみに気をつけている ・化粧品等を持ってみえる利用者様には、入浴後に声掛けを行なっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・一人ひとりの好みや食べ方を観察している ・食器拭きや洗濯物たたみを一緒に行っている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一人一人の食べる量や大きさを考え、提供している ・水分量が少ない利用者様には口当たりの良いゼリーなどを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、実施して頂いている ・仕上げが必要な利用者様には歯の状態に合わせて、洗口液やスポンジにて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・活動の節目にはトイレの声掛けや誘導を行なっている ・排泄のパターンやしぐさを知る事によりトイレ内での排泄を促している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・週に3回午前のおやつにはヨーグルトにオリゴ糖をかけて提供し、自然排便を促している ・ホットタオルで腹部を温めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・全ての希望に添い入浴を行うことは難しいが心身状態や気分に応じて入浴日を変更している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・自由に共用部と居室を行き来でき、好きな時に休む事が出来る ・必要な利用者様にはお昼寝の時間を設けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服薬の一覧表があり、職員はすぐに確認出来るようになっている ・変更の場合には看護師や薬剤師よりその都度、情報提供されている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個々に応じた役割や日課が出来るように考えている 食器拭きや洗濯物たたみをやって頂きながらメリハリをつけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・コロナ禍の為、外出支援は出来ていないが、終息後には出来る限り希望に添って外出支援を行なっていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金は基本的に事務所で管理している希望する場合には使うことが出来るようになっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご家族と手紙のやり取りをされている方もみえる ・ご家族の承諾があれば自由にやりとりして頂いている ・年賀状をご家族に出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節を感じられるように共用部のカレンダーの周りや壁に利用者様に折り紙や貼り絵をして頂き貼っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事の席とは違う場所にソファを置き、テレビが観れるようになっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時、馴染みの物を持って来て頂いたり居室に家族様の写真を飾ったり、趣味の物を持って来て頂いたりしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・毎月モニタリングをし、利用者様の出来る事を把握している ・全て職員がするのではなく見守りをし、出来る事を生活に取り入れている		